



堺市堺区
への まつ
第16回 **船松人権歴史館—名人阪田三吉に会う—**



将棋名人阪田三吉は、大鳥郡船松村、現在の堺市に生まれた。苦しい暮らしの中で、生業の草履表づくりなどを手伝いながら、大人の将棋を見て覚えたという。映画などの主人公にもなったこの三吉は、没後に日本将棋連盟から名人位・王将位を贈られた。師匠につかず、

「くらし」のコーナーでは、四畳半一間の暮らしや狭い路地「はんらく」が模型で再現され、当時の劣悪な住環境を物語る。「しごと」のコーナーでは、靴直し、くず物行商、と畜業などの写真や道具の実物が展示され、人々の厳しい仕事の様子がかがわれる。「船松の歴史」



実戦による独特の攻めが将棋界で注目され、一方、名人を名のったことが僭称とされ、それが原因で東京の将棋界から絶縁関係にあったという。宿敵関根金次郎名人との名勝負が有名で、「銀が泣いている」などの名文句がある。

このような阪田三吉がどうして生み出されたのだろうか。三吉をはじめ、船松村の暮らしや歴史を展示する船松人権歴史館を訪ねた。

船松人権歴史館は、南海電鉄高野線堺東駅からバスで15分の、堺市立人権ふれあいセンターの7階にある。入り口を入るとすぐに、将棋盤や駒が目飛び込んできた。阪田三吉記念室である。三吉ゆかりの将棋盤や免状の額が展示されている。映像での『さんきい物語』が、三吉の暮らしや成長のドラマをやさしく教えてくれた。

や「船松の部落解放運動」のコーナーからは、泉野利喜蔵などが中心となった「一誠会」や「船松水平社」などの、部落解放運動の歴史が解説されていく。そして「啓発」のコーナーでは、差別図書「部落地名総鑑」の新たな発覚などが紹介され、これからの同和問題の解決を求めている。

船松人権歴史館には、部落差別によって劣悪におかれた暮らしや仕事の中で、人々がその差別に負けずたくましく生き抜いてきた姿、差別をなくそうと取り組んできた姿があった。

阪田三吉の独自の棋風やその力強さが、この船松村の人々の歴史や暮らし、その生きざまの力強さと重なって見えた。

(船松人権歴史館：堺市堺区協和町2丁61、電話072-245-2536)

「言葉」

大阪市中学(年生当時)

田口志織

言葉は不思議だ
ノートに書いた字は
消しゴムで消せるのに
言った言葉は
消しゴムでは消せない
ほめられるとうれしくなり
けなされると悲しくなる
やさしい言葉をかけられると
心が温くなり
意地悪な言葉をかけられると
心が冷たくなる
何気ない一言でも
ケンカになったり
仲良くなれたり
それはきつと
言葉は心で
心は言葉
だから消しゴムでは
消せない

2005年度人権啓発詩・読書感想文募集事業
(大阪府・大阪府教育委員会・愛ネット大阪) (財)大阪府人権協会への入選作品より

編集後記

■本誌「そうぞう」も2002年6月の創刊から今号で20号を迎えました。総合的な人権情報誌として、この間、多くの府民、関係者から激励や期待の声寄せられました。感謝しながら、さらに誌面の充実努めていきます。(H)

■ビッグイシューの編集長取材して、「発行できたら、安心して暇もなく、もう次号について考え始めている」と聞き、見習わなければと思いました。ということは、僕って「そうぞう」の編集長？(T)

2007(平成19)年3月発行

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は48円です。

発行／大阪府政策企画部人権室

編集／財団法人大阪府人権協会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
TEL.06-6941-0351 FAX.06-6944-6616
http://www.pref.osaka.jp/jinken/

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12
TEL.06-6568-2983 FAX.06-6568-2985
http://www.jinken-osaka.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています

「そうぞう」とは

人権尊重社会を実現するためには、さまざまな偏見や差別を受けている人の状況・気持ちを「想像」すること、豊かな人権文化を「創造」することが必要です。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように一そんな思いが込められています。